

田川市石炭・歴史博物館のご案内

(令和元年度・下半期)

今年度の山本作兵衛コレクション原画企画展

「運ベ石炭！燃やせ黒ダイヤ！」

秋季企画展「線路は続くよ港まで」



今年度の企画展は「石炭の運搬・輸送」をテーマとし、前編と後編に分けて開催します。

黒ダイヤと呼ばれた石炭。石炭はどうやって運ばれていくのか？

後期の秋季企画展では、鉄道輸送に焦点をあてます！

主催◆田川市石炭・歴史博物館

期間◆令和元年10月29日(火)～令和元年11月24日(日)

※会期中の休館日：11月5日(火)・11月11日(月)・11月18日(月)

会場◆田川市石炭・歴史博物館 第2展示室ほか

関連イベント

●運ベ石炭！トーク！

石炭輸送における鉄道路線の歴史から、現在までを語るトークイベントを開催します！※事前予約なし・当日受付

日時：令和元年11月16日(日)14:00～(13:30 受付開始)

会場：田川市民会館 講座室1

参加費：無料

登壇者(予定)：河合賢一氏(平成筑豊鉄道株式会社代表取締役社長)

渡部邦昭氏(九州歴史資料館学芸員)

八尋孝司氏(直方市石炭記念館館長)

前田憲太郎氏(あかむらトロッコの会広報部長)

◆博物館スタッフのおすすめ◆ Vol.3

博物館の外(石炭記念公園内)にある、【59684】のナンバープレートが付いた蒸気機関車をもうご覧になりましたか？

以前この機関車をご覧になったお客さまから「看板の説明には『【585】台目に製造された』と書いてあるが、【584】台目の間違えでは？」というご質問をいただいたことがありますので、ご紹介します！

9600形のナンバーは製造された順に、【9601】、【9602】と標記され、【9699】のように下2桁が99に達すると、次は【9700】にはならず【19600】というように、万の位に1を標記します。これを公園の保存機に当てはめると、【59684】→【584】となり製造順は584番目となりますが…。

実は、1台目が【9600】から始まるので、2台目は【9601】となります！つまり公園の保存機の製造順は【59684】→【584】→【584+1】=【585】台目となるわけです！ちなみに、兄弟機にあたる製造順【584】台目の機体【59683】は、遠く離れた北海道の斜里町にある町民公園に保存されているそうですよ。

石炭記念公園内の保存機は、毎年鉄道の日(10/14)の前後に有志の方々による塗り替えを行っているため、11月の第1土曜・日曜日に開催されるコールマインフェスティバルでは、ピカピカの状態をご覧ください！お色直した姿を見に、ぜひお越しください！



▲石炭記念公園に保存されている機関車

ロビー展示

●学芸員によるミニ企画

1階ロビーにて開催中

※2カ月に1回のペースで更新します



お気づきですか？

春季企画展のチラシ(左)と秋季企画展のチラシ(右)を合すると…

2枚の写真が現われます！



博物館の活動

教育普及

たがわゼミナール

今年度は、筑豊炭田遺跡群が国指定史跡に指定されたことに関連して、田川・筑豊地域の国指定史跡をテーマとします。

これからの日程：

- 第4回 ● 令和元年10月12日(土)
【三井田川鉱業所跡周辺フィールドワーク1】
- 第5回 ● 令和元年11月9日(土)
【三井田川鉱業所跡周辺フィールドワーク2】
- 第6回 ● 令和元年12月14日(土)
【城山横穴群について】
- 第7回 ● 令和2年1月11日(土)
【竹原古墳について】
- 第8回 ● 令和2年2月8日(土)
【鹿毛馬神籠石について】

会場：田川市石炭・歴史博物館 産業ふれあい館研修室

受講料：無料

※申込・問合せは博物館まで！

遠賀川流域の古墳同時公開

遠賀川流域の古墳同時公開の一環として、田川市では夏吉1・21号墳(市指定史跡)の現地解説を行っています。

秋 ● 令和元年10月20日(日) ※予定



調査研究

三井田川鉱業所研究会

博物館附属研究所では、田川市域に所在した筑豊最大級の炭鉱、三井田川鉱業所の歴史について調査研究を行っています。

博物館研修講座

市内小中学校教職員を対象とした研修講座を令和元年8月23日に行いました。

文化財保護

文化財調査報告書刊行に向けて

埋蔵文化財報告書刊行のため、主に弓削田原B遺跡・上の原遺跡群・猫迫1号墳等から出土した土器類の洗浄作業を行っています。



「世界の記憶」を活用したユニバーサル・ミュージアム事業

文化庁補助事業「地域と共働した博物館創造活動支援事業」により、「山本作兵衛コレクション」等を活用したユニバーサル・ミュージアムを目指した取り組みとして、下記の事業を実施します。

◆国際交流拠点形成事業

国際交流拠点としての博物館の機能を強化するため、多言語パンフ(繁体字・ドイツ語)の作成や、多言語音声ガイドシステムの構築を行います。また、従前からの台湾交流事業の一環として、相互の出前授業交流を実施します。

◆子ども学芸員育成事業

博物館のユニバーサル化の担い手として、小学生を対象とし「子ども学芸員」を育成します。

夏休みKidsイベント

夏休み期間中に4回、主に小中学生を対象としたワークショップを行いました。



山本作兵衛ゼミナール

炭坑記録画書き下し文等の調査研究を、市民の皆さんと協働により行っています。

世界記憶遺産保存事業

近現代紙資料の保存・修復等に関する研究を、京都造形芸術大学と共同で行っています。

